大学教育学会ニュースレター

No.111　　2019.4.19

一般社団法人大学教育学会　（Japan Association for College and University Education）
事務局：　〒252-0231　神奈川県相模原市中央区相模原 2-8-20-204
TEL/FAX：（042）707-8112
郵便振替口座：00210-9-102857　一般社団法人大学教育学会
E-mail：**jacue.office@gmail.com**　　URL：　http://www.daigakukyoiku-gakkai.org/

大学教育学会第41回大会を開催するにあたって

大学教育学会第 41 回大会（2019 年）
大会実行委員長　稲　葉　興　己
（学校法人玉川学園高等教育担当理事）

大学教育学会第 41 回大会を 2019 年 6 月 1 日～2 日に玉川大学において開催させていただくことになりました。

本大会の統一テーマは、「高大接続改革と大学教育」です。高大接続改革の進捗状況として、高等学校教育では『高校生のための学びの基礎診断』の認定基準・手続等に関する規程が 2018 年 3 月に策定され、2019 年度から本格的に利活用が開始されます。入試改革では、2018 年 11 月に実施された「大学入学共通テスト」の第 2 回試行調査の分析･検証を経て、各教科・科目における問題のねらいや実施方法等が 2019 年度初頭に正式に公表される予定になっています。大学教育にかんしては、2017 年の 3 ポリシーの策定と公表につづき、2018 年度からこの 3 ポリシー等が共通評価項目として認証評価制度に反映されました。これらの一連の流れの中で、大学はどのように変化し、どのような成果を生み出していくべきなのか、そのためにはどのような取り組みをすべきかをともに考え、議論していきたいと思います。

基調講演では、国立情報学研究所・社会共有知研究センター長の新井紀子教授に「AI 時代の高大接続改革 - 読解力調査から見る今の高校生・大学生」をテーマにご講演いただきます。新井教授は、社団法人・教育のための科学研究所代表理事・所長でもあり、「ロボットは東大に入れるか」プロジェクトを推進し、相当レベルの大学の合格レベルに達した AI（東ロボ）を開発されています。

シンポジウムでは「どう変わる高校教育・どう変える大学教育－高大接続改革における大学教育のあり方を問う」と題し、3 名のシンポジストが報告をします。荒瀬克己氏（大谷大学）は「高校新学習指導要領の方向性」について、星野あゆみ（玉川大学）は「国際バカロレアの実際と高大接続」について、松下佳代氏（京都大学）は「高大接続改革における大学教育のあり方」についてお話しいただきます。それを受けて、山地弘起氏（大学入試センター）には指定討論をいただきます。コーディネーターは大塚雄作氏（大学入試センター）にお願いし、各報告および指定討論に対するコメントのほか、フロアの皆さんと議論を深めるための提案がなされます。

また、本大会ではラウンドテーブルに 2 つの課題研究を含め 18 件、自由研究発表に 115 件と、多くの発表申し込みをいただいています。皆様には、ぜひ、大会にご参加いただき、今後の大学教育のさらなる発展に関わっていただければと思っています。

新緑が美しい玉川の丘にて、皆様のお越しを心よりお待ちしています。

大学教育学会第 41 回大会（2019 年）

統一テーマ

高大接続改革と大学教育

１．開催期日および会場

期 日　2019年6月1日［土］、6月2日［日］
会 場　玉川大学　大学教育棟 2014　（東京都町田市玉川学園6-1-1）
小田急線　玉川学園前駅下車　徒歩3分
参加受付、初めて参加する人のためのオリエンテーション、自由研究発表、事業報告会
基調講演、ラウンドテーブル、シンポジウム　：　大学教育棟 2014
情報交換会　：　カフェテリア SAKUFU（大学教育棟 2014　隣接）

２．大会日程

第 1 日：6月1日［土］

8:45　9:15　10:00　12:30　13:30　15:30　15:50　16:20　16:30　16:50　18:10　18:30　20:00

受付		自由研究発表 I	昼食	自由研究発表 II		事業報告会		開会行事	基調講演		情報交換会

9:15－9:50　初めて参加する人のためのオリエンテーション

8:45	受付開始（大学教育棟 2014　2F　デッキ）
9:15 － 9:50	初めて参加する人のためのオリエンテーション
10:00 － 12:30	自由研究発表 I
12:30 － 13:30	昼食
13:30 － 15:30	自由研究発表 II
15:30 － 15:50	休憩
15:50 － 16:20	事業報告会
16:30 － 16:50	開催挨拶　大学教育学会　会長　山田礼子 開催校挨拶　玉川大学　学長　小原芳明 JACUE セレクション認定式
16:50 － 18:10	基調講演　新井紀子氏 国立情報学研究所　社会共有知研究センター長・教授 社団法人　教育のための科学研究所　代表理事・所長 「AI 時代の高大接続改革 - 読解力調査から見る今の高校生・大学生」
18:10 － 18:30	休憩・移動
18:30 － 20:00	情報交換会

＊6 月 1 日（土）若手研究者交流会について
情報交換会終了後に、毎年好評の若手研究者交流会を予定しております。学生・大学院生、入職後約 5 年以内の教職員の皆さんなど、同じ立場の仲間と研究、教育、実践、キャリアに関する情報交換をしましょう。是非新たなネットワークを構築しましょう。非会員の方も参加できます。
日時：2019 年 6 月 1 日（土）20 時 00 分～21 時 30 分
場所：「イタリアーナ」（℡042-722-8812・玉川学園正門から踏切を挟んで正面）
定員：先着 40 名　予算：3,000 円（フリードリンクつき）
申込：以下の大会の参加登録画面（大会 HP からリンク）からお申し込みください。
https://conv.toptour.co.jp/shop/evt/daigakukyouikugakkai/　　申込締切：5 月 11 日（土）

※ 申込み後に都合によりキャンセルされる場合は、5 月 24 日(金)までに必ず jacue.con.2019@tamagawa.ac.jp（玉川大学　学会事務局）までご連絡ください。それを過ぎますとキャンセル料が発生する場合がございます。ご了承ください。

第 2 日：6月2日［日］

9:00　9:30　12:00　13:00　16:00　16:10　16:30　18:00

受付	ラウンドテーブル	昼食	シンポジウム	閉会挨拶		ポストワークショップ

9:00	受付開始
9:30 - 12:00	ラウンドテーブル
12:00 - 13:00	昼食
13:00 - 16:00	シンポジウム 「どう変わる高校教育・どう変える大学教育―高大接続改革における大学教育のあり方を問う」
16:00 - 16:10	閉会挨拶
16:10 - 16:30	移動
16:30 - 18:00	ポストワークショップ

※　6 月 2 日（日）ポストワークショップについて

本学会活動の大学教育改革への貢献の可視化と会員の能力開発を促すため、ポストワークショップ（各定員 50 名、有料）を実施いたします。今大会では A「教学 IR と教育改善の接続－指標としての可視化－」と B「授業改善につながるリフレクションの方法」の 2 種類を実施します（同時刻開催）。参加を希望される方は大会参加申し込みと合わせてお申し込みください。

〇ポストワークショップ A「教学 IR と教育改善の接続－指標としての可視化－」

講師：松田岳士会員（首都大学東京）・杉原　亨会員（関東学院大学）

会場：大学教育棟 2014 3F ラーニング・コモンズ内

教学 IR によるデータの分析結果を個々の授業（ミクロレベル）の教育改善に使うには、一見無機質なデータを授業改善に使えるようにするための可視化が必要であるばかりではなく、授業の改善点も可視化できなければなりません。ここで「可視化」とは単にデータをグラフや表にするという意味ではなく、授業の成果や改善状況を説明可能にすることを含みます。このような改善のために重要なのが、どのような指標（Indicator）を設定し、どのように用いるかについてのノウハウを持つことです。

本ワークショップでは、何種類かの授業タイプ（大規模知識伝達・中規模アクティブラーニング・小規模ゼミ）を想定し、参加者とともに指標の設計方法や改善につなげるためのチェックポイントを確認していきます。特段の事前準備や専門的な統計の知識は不要ですが、改善したい授業の問題点をまとめてきていただけると、スムーズに参加できるワークショップです。

本ワークショップ参加者には、テキストとして、松田岳士他編（2017）『大学 IR スタンダード指標　教育質保証から財務まで（高等教育シリーズ 173）』（玉川大学出版部）（JACUE セレクション 2018 選定図書）が配付されます。

〇ポストワークショップ B「授業改善につながるリフレクションの方法」

講師：大山牧子会員（大阪大学）

会場：大学教育棟 2014 3F ラーニング・コモンズ内

専門性や個別性が高い大学の授業において、大学教員が自分の教授活動を改善するために授業を「ふりかえる」ことが重要であることは、既に周知の事実となってきています。しかし、手あたり次第に何でも「ふりかえる」ということだけでは、改善にはつながりません。自らを対象として、授業について深く熟考し、次の指針を得るという「省察」のプロセスを経ることで、持続的な改善が実現すると考えられます。

本ワークショップでは、省察の観点や事例と共に、それらを支援するツールの紹介を通して授業を改善するための省察について学びます。また、省察の手法の一つである「カード構造化法」を実際に経験することで、自身の授業の構造を可視化し、ペアワークで省察の実践を行い、次の教育活動の指針を創り出します。授業経験が少ない大学教員や、もう一度自分の授業を見つめ直してみようと思われる大学教員を歓迎します。

本ワークショップ参加者には、テキストとして、大山牧子編（2018）『大学教育における教員の省察 - 持続可能な教授活動改善の理論と実践』（ナカニシヤ出版）が配付されます。

関連行事：5月31日［金］

13：00 - 17：30　理事会　（大学研究室棟 B107 会議室）
定時代議員総会　（大学研究室棟 B104 会議室）

進行の詳細

6月1日（土）　大学教育棟 2014

8：45～　受付

9：15～9：50　初めて参加する人のためのオリエンテーション

会 場：5F　521 教室　担当：大学教育学会常務理事　濱名 篤（関西国際大学）

10：00～12：30　自由研究発表Ⅰ　（◯は登壇者）

部会１　学士課程教育①
会　場　：　501 教室
司　会　：　小笠原正明（北海道大学）・杉本和弘（東北大学）
10:00～10:20　教養系学部の学際性に関する分析
◯栗原郁太（津田塾大学）
10:20～10:40　教養教育におけるメディア・リテラシーの育成（２）
◯後藤康志（新潟大学）
10:40～11:00　日本の看護系大学の教養教育効果検証の試み
◯上畠洋佑（愛媛大学）
11:00～11:10　休憩
11:10～11:30　教養教育における科目選択理由と授業経験が主体的学習態度に与える影響
◯岡田有司（東北大学）、渡邉文枝（東北大学）
11:30～11:50　修養の核心としての「軍人勅諭」
◯加藤恒男
12:10～12:30　総合討論

部会２　学士課程教育②
会　場　：　502 教室
司　会　：　大森不二雄（東北大学）・深堀聰子（九州大学）
10:00～10:20　アクティブラーニング科目「大学教養入門」の１年目の効果
◯石井三恵（摂南大学）、伊藤　譲（摂南大学）、久保貞也（摂南大学、非会員）、柳沢　学（摂南大学、非会員）、寺内睦博（摂南大学、非会員）、水野　武（摂南大学、非会員）、上野山裕士（摂南大学、非会員）、大塚正人（摂南大学、非会員）、藤林真美（摂南大学、非会員）、萩田喜代一（摂南大学、非会員）
10:20～10:40　PBL カリキュラムの学習効果－パフォーマンス型の直接評価を用いた縦断研究にもとづいて－
◯小野和宏（新潟大学）、松下佳代（京都大学）、斎藤有吾（藍野大学）

10:40～11:00　e ポートフォリオを活用する学生の特性分析の試み
◯山内一祥（佐賀大学）、皆本晃弥（佐賀大学）
11:00～11:10　休憩
11:10～11:30　卒業研究の研究その 4：社会科学系学科における成績評価
◯串本　剛（東北大学）
11:30～11:50　新潟大学における学位プログラム評価を実現するための課題－学修成果の評価に係る指針の策定を通じて－
◯樋口　健（新潟大学）、小野和宏（新潟大学）、関　隆宏（新潟大学、非会員）、松井克浩（新潟大学、非会員）濱口　哲（新潟大学）
11:50～12:10　大学生の Self-authorship 能力に関する評価尺度を用いた検討
◯佐藤冬果（筑波大学大学院）、坂本昭裕（筑波大学、非会員）
12:10～12:30　総合討論

部会３　学士課程教育③
会　場　：　503 教室
司　会　：　橋本健夫（長崎国際大学）・細川敏幸（北海道大学）
10:00～10:20　米国パデュー大学工学群における初年次工学プログラム
◯林愛彩香（東京工業大学大学院）
10:20～10:40　理工系学生を対象としたトランス・サイエンス的問題に対する批判的思考構築アプローチの検討
◯岩田陽子（東京農工大学）、磯部洋明（京都市立芸術大学、非会員）
10:40～11:00　農学系学生の汎用的技能の習得度と学習方略，キャリア意識との関連
◯澤田忠幸（石川県立大学）
11:00～11:10　休憩
11:10～11:30　リベラル・アーツとしての物理学教育のシラバス分析－持続可能な教育とトピック科目－
◯内山弘美（東京大学）
11:30～11:50　社会福祉専門職に必要とされるクリティカルシンキングとは何か
◯久保田祐歌（関西福祉科学大学）
11:50～12:10　ミニマム・リクワイアメント設定によるディプロマ・ポリシー達成基準の適正化
◯椋平　淳（大阪工業大学）、野村良紀（大阪工業大学、非会員）
12:10～12:30　総合討論

部会４　教育方法・教育改善①
会　場　：　504 教室
司　会　：　沖　裕貴（立命館大学）・中島英博（名古屋大学）
10:00～10:20　講義科目における主体的な学びの実現に向けた課題
◯三宅元子（名古屋女子大学）、白井靖敏（名古屋女子大学、非会員）
10:20～10:40　授業ボランティアが創る学びの場
◯筒井洋一（京都工芸繊維大学）
10:40～11:00　論証モデルを用いたアカデミックライティングの授業デザインの有効性－レポートの自己評価とピア評価にもとづいて－
◯丹原　惇（新潟大学）、小野和宏（新潟大学）、松下佳代（京都大学）、斎藤有吾（藍野大学）、西山秀昌（新潟大学、非会員）、秋葉陽介（新潟大学、非会員）
11:00～11:10　休憩
11:10～11:30　「公開レッスン」の分析に基づく演奏レッスン改善法の提案－音楽大学の演奏系教師のための FD－
◯中西千春（国立音楽大学）、本島阿佐子（国立音楽大学、非会員）

11:30～11:50　全学共通の科学リテラシー科目における e-learning 導入の効果
◯山本一雄（神奈川工科大学）、神谷克政（神奈川工科大学、非会員）、
藤村　陽（神奈川工科大学、非会員）、栗田泰生（神奈川工科大学）
11:50～12:10　探究的な学習活動を促す授業設計の検討－教員養成課程における探究学習の意義－
◯小林恭士（宮城教育大学）
12:10～12:30　総合討論

部会５　教育方法・教育改善②
会　場　：　510 教室
司　会　：　佐々木一也（立教大学）・森　朋子（関西大学）
10:00～10:20　自分流が身に付く授業展開
◯安岡高志（帝京大学）、井上史子（帝京大学）
10:20～10:40　医療分野における PBL の持続要因に関する事例分析
◯杉山芳生（京都大学大学院）、松下佳代（京都大学）
10:40～11:00　統計ゲームによる認識的準備活動を取り入れた反転授業の実践と評価
◯伏木田稚子（首都大学東京）、大浦弘樹（東京工業大学、非会員）、
吉川　遼（名古屋文理大学、非会員）
11:00～11:10　休憩
11:10～11:30　反転授業における学生の事前学習への取り組み方の変化
◯澁川幸加（京都大学大学院）、田口真奈（京都大学）
11:30～11:50　グループ学習におけるフリーライドの心的要因モデル開発の試み―京都産業大学課題解決型授業の実態調査にもとづいて―
◯後藤文彦（京都産業大学、団体会員）、伊吹勇亮（京都産業大学、団体会員）、
木原麻子（京都産業大学）、中尾憲司（京都産業大学、団体会員）
11:50～12:10　学生はどのような動機で授業の企画・運営に参画するのか―学生発案型授業を事例として―
◯石井和也（宇都宮大学）
12:10～12:30　総合討論

部会６　教育方法・教育改善３
会　場　：　511 教室
司　会　：　栗田佳代子（東京大学）・松下佳代（京都大学）
10:00～10:20　介護実習におけるルーブリック評価の導入
◯福田洋子（高田短期大学、団体会員）、鷲尾　敦（高田短期大学、団体会員）、
野呂健一（高田短期大学、団体会員）、寳來　敬章（高田短期大学、団体会員）
10:20～10:40　ルーブリックのフィードバック機能に関する一考察
◯長沼祥太郎（九州大学）
10:40～11:00　組織的授業改善における評価指標としての授業評価アンケートの役割
◯岩瀬峰代（島根大学）、原田健太郎（島根大学）、鹿住大助（島根大学）
11:00～11:10　休憩
11:10～11:30　理学療法における臨床実習のパフォーマンス評価と大学における追加型評価・埋込み型評価との関連
◯平山朋子（藍野大学）、斎藤有吾（藍野大学）松下佳代（京都大学）
11:30～11:50　工学系大学における短期語学研修プログラムの評価
◯相原総一郎（芝浦工業大学）、◯吉久保肇子（芝浦工業大学）、
橘　雅彦（芝浦工業大学、非会員）
11:50～12:10　医療系学生の基礎的な学習スキルを測定するためのテストの開発
◯斎藤有吾（藍野大学）、平山朋子（藍野大学）、中村剛至（藍野大学）
12:10～12:30　総合討論

部会７　初年次教育①
会　場　：　512 教室
司　会　：　井下千以子（桜美林大学）・杉原真晃（聖心女子大学）
10:00～10:20　三位一体の初年次教育システムの構築―金沢医科大学の取り組み―
◯本田康二郎（金沢医科大学、団体会員）、◯公地宗弘（金沢医科大学、団体会員）、◯菊地健至（金沢医科大学、団体会員）
10:20～10:40　初年次文章表現教育におけるピアレビューの観点と効果
◯春日美穂（大正大学）
10:40～11:00　初年次学生のレポート作成におけるインターネット資料の実態
◯宮本　淳（愛知医科大学）、仙石昌也（愛知医科大学）、橋本貴宏（愛知医科大学）、山森孝彦（愛知医科大学）、久留友紀子（愛知医科大学）、山下敏史（愛知医科大学、非会員）
11:00～11:10　休憩
11:10～11:30　学生の主体的に問う力を育成する試み―初年次における表現教育の事例から―
◯佐藤広子（創価大学）
11:30～11:50　継続的なライティング学習支援の効果-学生アスリート１年生の文書作成能力の成長-
◯多田泰紘（関西大学）、岩崎千晶（関西大学）、中澤　務（関西大学、非会員）
11:50～12:10　初めの一歩から大学での学術活動に邁進するための大学導入科目を目指して
◯安村友紀（東京農工大学）
12:10～12:30　総合討論

部会８　高大連携・高大接続①
会　場　：　513 教室
司　会　：　出光直樹（横浜市立大学）・大塚雄作（大学入試センター）
10:00～10:20　追手門学院大学における大学適応支援の実施と成果
◯田上正範（追手門学院大学）、清水栄子（追手門学院大学）、岸岡奈津子（立命館大学）、梅村　修（追手門学院大学）、上田滋夢（追手門学院大学、非会員）、秦　敬治（岡山理科大学）、藤本祥之（追手門学院大学、非会員）馬場洸志（追手門学院大学、非会員）、米澤愼二（ノートルダム清心女子大学、非会員）
10:20～10:40　高大接続におけるライティング教育の一考察
◯勝俣文子（加藤学園暁秀中学校・高等学校）、◯倉持長子（聖心女子大学）
10:40～11:00　入学者選抜の違いが入学後の学修におよぼす効果の検討―大学生調査における推薦・AO 入試と一般入試の相違に注目して
◯木村治生（ベネッセ教育総合研究所）、原田　章（追手門学院大学、非会員）
11:00～11:10　休憩
11:10～11:30　大学入試方式による新入生の学習観・行動特性の検討
◯山本以和子（京都工芸繊維大学）、坂井裕紀（早稲田大学、非会員）
11:30～11:50　「高大接続」の観点で改革する教学マネジメント
◯山内　洋（大正大学）、◯君島菜奈（大正大学）、日下田岳史（大正大学、非会員）、渡辺　篤（大正大学）
11:50～12:30　総合討論

部会９　学生支援①
会　場　：　601 教室
司　会　：　沖　清豪（早稲田大学）・田中　岳（東京工業大学）
10:00～10:20　地域連携活動における学生の貢献感・信頼感と学習成果の関連についての考察
◯櫻井典子（新潟大学）、箕口秀夫（新潟大学、非会員）、松井賢二（新潟大学、非会員）、飯島康夫（新潟大学、非会員）

10:20～10:40　大学教育における学寮の位置づけと「学修」の概念的検討－国際学寮担当職協会（ACUHO-I）の議論を手がかりに－
◯蝶　慎一（大学改革支援・学位授与機構）

10:40～11:00　米国における学生アスリートの学習支援体制の最前線―大学間連携ネットワークの提案に向けて―
◯長倉富貴（山梨学院大学）、◯石川勝彦（山梨学院大学、団体会員）、
◯幸野邦男（武庫川女子大学）、東原文郎（桜美林大学、非会員）

11:00～11:10　休憩

11:10～11:30　日本の大学におけるアカデミック・アドバイジングの在り方-実践を通して-
◯中野正俊（金沢大学）、井上咲希（金沢大学）

11:30～11:50　2014・2018 年度短期大学生調査の比較分析による経年変化の考察
◯宮里翔大（桜美林大学大学院）、◯堺　完（大分大学）、
山崎慎一（桜美林大学）、黄　海玉（短期大学基準協会）

11:50～12:10　大学生のリーダーシップ開発に関する一考察
◯岸岡洋介（京都外国語大学）、村田晋也（愛媛大学）、
秦　敬治（岡山理科大学）

12:10～12:30　総合討論

部会 10　キャリア教育①

会　場　：　605 教室
司　会　：　小山悦司（倉敷芸術科学大学）・望月由起（日本大学）

10:00～10:20　人生のマルチステージモデルに基づくライフキャリアガイダンス－大学低年次生を対象にした授業実践－
◯稲垣久美子（明治大学）

10:20～10:40　世界の大学におけるキャリア教育・支援の動向 ―Global Careers Service Summit 参加報告―
◯家島明彦（大阪大学）

10:40～11:00　中国の全日制専門職大学院における学生の進学動機とその関連要因
◯王　佳（九州大学大学院）

11:00～11:10　休憩

11:10～11:30　キャリア教育におけるディプロマ・サプリメント活用法の提案
◯石田雪也（千歳科学技術大学）、池田弘之（千歳科学技術大学、非会員）、
吉本直人（千歳科学技術大学、非会員）

11:30～11:50　学生意識調査から見える卒業時点での「社会で活躍できる自信」
◯稲積宏誠（青山学院大学）

11:50～12:30　総合討論

部会 11　大学運営①

会　場　：　611 教室
司　会　：　森　利枝（大学改革支援・学位授与機構）・濱名　篤（関西国際大学）

10:00～10:20 大学における内部質保証と学習成果評価－全学と部局の関係性と課題を中心に
◯金　性希（大学改革支援・学位授与機構）、野田文香（東北大学）、
渋井　進（大学改革支援・学位授与機構、非会員）、
齋藤崇徳（大学改革支援・学位授与機構）

10:20～10:40　米国のコミュニティカレッジにおける準備不足学生（unprepared student）への教育指導の研究
◯宇田川拓雄（嘉悦大学）

10:40～11:00　ベトナム高等教育における内部質保証と外部質保証に関する一考察～ASEAN 地域における高等教育質保証システムから得られる示唆～
◯林　透（山口大学）、堀井祐介（金沢大学）

11:00～11:10　休憩
11:10～11:30　大学における内部質保証と学習成果評価－機関別認証評価の視点から－
◯野田文香（東北大学）、金　性希（大学改革支援・学位授与機構）、
齋藤崇徳（大学改革支援・学位授与機構）、
渋井　進（大学改革支援・学位授与機構、非会員）
11:30～11:50　内部質保証の確立：学修成果の可視化に資する調査体系の統合
◯江原昭博（関西学院大学）
11:50～12:30　総合討論

部会 12　教職員能力開発
会　場　：　615 教室
司　会　：　上田忠憲（大正大学）・佐藤浩章（大阪大学）
10:00～10:20　大学教員が抱く授業観の探索的検討―質問紙調査から見えてきた課題―
◯山田嘉徳（大阪産業大学）
10:20～10:40　大学教員の教育開発を支援する SoTL プロジェクト - 帝京大学における取組みの現状と課題 -
◯井上史子（帝京大学）
10:40～11:00　自己省察を用いた学習支援担当者の能力開発の可能性ーCAS Self-Assessment Guide に着目してー
◯清水栄子（追手門学院大学）、◯岸岡奈津子（立命館大学）
11:00～11:10　休憩
11:10～11:30　美術系大学職員の能力開発
◯奥原正弘（放送大学）
11:30～11:50　教育学習センター（CTL）はどのようにして高等教育を活性化させるか:ボストンにおける CTL のベンチマーキング調査
◯杉森公一（金沢大学）、Soisson, Annie（タフツ大学、非会員）、
Qualters,　Donna（タフツ大学、非会員）
11:50～12:10　SD としての大学院における学習―高等教育関連プログラムのカリキュラム比較を通じて
◯木村弘志（東京大学大学院）、◯井芹俊太郎（法政大学）
12:10～12:30　総合討論

12：30～13：30　昼食

13：30～15：30　自由研究発表 II　　（◯は登壇者）

部会 13　学士課程教育④
会　場　：　501 教室
司　会　：　池田輝政（追手門学院大学）・串本　剛（東北大学）
13:30～13:50　大学における実践コミュニケーション教育の意義ー口語表現法履修者へのアンケート調査からー
◯荒木晶子（桜美林大学）、◯瀬沼文彰（西武文理大学）、
◯片山奈緒美（筑波大学大学院）
13:50～14:10　大学生の学習行動の変容-大学初年次からのパネル調査（６年目）-
◯稲垣太一（学校法人金城学院）
14:10～14:30　「グローバル人材育成推進事業」における新たな学びの機会の創出：組織はどう変わり、学生は何を学んだか
◯長沢　誠（埼玉大学）

14:30～14:50　シラバスからみる授業外学習の実態
◯嶋田みのり（東北学院大学）、遠海友紀（東北学院大学）、
稲垣　忠（東北学院大学、非会員）
14:50～15:10　学士課程教育における学習成果の出身学部別分析－私立Ａ大学における卒業生調査の結果から－
◯篠田雅人（宝塚大学）
15:10～15:30　総合討論

部会 14　学士課程教育⑤
会　場　：　502 教室
司　会　：　近田政博（神戸大学）・夏目達也（名古屋大学）
13:30～13:50　全ての学生に保証する学習成果－AAC&U による必須学習成果を題材に－
◯深野政之（大阪府立大学）
13:50～14:10　グローバリゼーションとユニバーサリゼーションの渦中の大学の共通教育の現状と将来
◯清水　亮（神戸学院大学）
14:10～14:30　授業アンケートの新たな役割
◯須長一幸（福岡大学）、鶴田直之（福岡大学、非会員）、
永田潔文（福岡大学、非会員）、大浦淑子（福岡大学、非会員）
14:30～14:50　ラーニングコモンズを巡る国内動向の基礎的調査研究－ラーニングコモンズに関する国内文献レビューを手がかりに－
◯千葉美保子（甲南大学）、◯川面きよ（東北大学）、岩崎千晶（関西大学）、
村上正行（大阪大学）
14:50～15:30　総合討論

部会 15　教育方法･授業改善④
会　場　：　503 教室
司　会　：　石渡尊子（桜美林大学）・中井俊樹（愛媛大学）
13:30～13:50　全学的なＦＤ活動をつくる－授業の確立から授業のアクティブ化へ－
◯久田晴生（大同大学）、棚村壽三（大同大学、非会員）、石田敏彦（大同大学、非会員）、二村俊英（大同大学、非会員）、梅田礼子（大同大学、非会員）
13:50～14:10　アクティブ・ラーニング型授業における外化と社会人基礎力の関連
◯佐瀬竜一（常葉大学）、増井実子（常葉大学、非会員）、谷　誠司（常葉大学、非会員）、戸田裕司（常葉大学、非会員）、安武伸朗（常葉大学、非会員）、
柘植健一（常葉大学、非会員）
14:10～14:30　アクティブラーニング科目「大学教養入門」の開発
◯伊藤　譲（摂南大学）、萩田喜代一（摂南大学、非会員）、小野晃正（摂南大学、非会員）、石井三恵（摂南大学）、柳沢　学（摂南大学、非会員）、久保貞也（摂南大学、非会員）、寺内睦博（摂南大学、非会員）、水野　武（摂南大学、非会員）大塚正人（摂南大学、非会員）、藤林真美（摂南大学、非会員）、
上野山裕士（摂南大学、非会員）
14:30～14:50　アクティブ・ラーニング型授業への適応度を向上させるための一考察
◯松尾美香（岡山理科大学）、◯望月雅光（創価大学）
14:50～15:10　脳科学の観点から見たアクティブラーニングに関する考察
◯伊藤　博（名古屋商科大学）
15:10～15:30　総合討論

部会 16　教育方法・教育改善⑤
会　場　：　504 教室
司　会　：　戸村　理（國學院大學）・山田剛史（京都大学）

13:30～13:50　大学生の質問行動の生起に影響を与える要因間の関連の検討
◯武藤浩子（早稲田大学大学院）
13:50～14:10　外国語科目の習熟度別クラス編成における成績分布調整に関する分析
◯西出　崇（京都外国語大学）
14:10～14:30　授業中のデータをつなぐことから始まる学生理解と授業改善
◯橋本健夫（長崎国際大学）、橋本優花里（長崎県立大学）
14:30～14:50　クラスチームビルディングの進展と学習動機の質的変化の相関
◯本田直也（大手前大学）、◯川崎弘也（ラーニングバリュー）、
安達未来（大阪電気通信大学、非会員）
14:50～15:10　卒業研究における「学術研究らしさ」の理解を深める指導方法―模範例の活用に関する学生へのインタビュー調査―
◯岩田貴帆（京都大学大学院）
15:10～15:30　総合討論

部会 17　初年次教育②
会　場　：　510 教室
司　会　：　飯吉弘子（大阪市立大学）・杉谷祐美子（青山学院大学）
13:30～13:50　初年次薬学入門実験の行動様式から導出される学力要指導学生の探索
◯武田直仁（名城大学）、植田康次（名城大学、非会員）、川村智子（名城大学、非会員）、武永尚子（名城大学、非会員）、飯田耕太郎（名城大学、非会員）、田口忠緒（名城大学、非会員）
13:50～14:10　山形大学基盤共通教育における導入科目と基幹科目の連携について
◯橋爪孝夫（山形大学）
14:10～14:30　初年次キャリア教育科目における成長要因は何か――授業履修者に対する 3 時点にわたる質問紙調査による検証
◯小山　治（京都産業大学）
14:30～14:50　教育の質保証に向けた初年次教育改革の取り組み２－学生の学修行動と学修成果－
◯川越明日香（熊本大学）
14:50～15:30　総合討論

部会 18　情報教育・数理教育
会　場　：　511 教室
司　会　：　高橋哲也（大阪府立大学）・村上正行（大阪大学）
13:30～13:50　教養科目としての物理教育-科学的推論能力育成
◯庄司善彦（兵庫県立大学）
13:50～14:10　情報教育による情報活用能力の育成：情報社会に参画する態度に関する考察
◯佐藤尊範（東海学院大学）
14:10～14:30　情報に関する能力の比較検討―高等教育のための情報リテラシー基準」の拡張に向けて―
◯飯尾　健（京都大学大学院）
14:30～14:50　初年次情報リテラシー教育に必要なこと
◯中田美喜子（広島女学院大学）
14:50～15:10　正課外プロジェクト活動を通した理工系学部生に対する STEM 学習への動機付け効果
◯長谷川　誠（千歳科学技術大学）
15:10～15:30　総合討論

部会 19　高大連携・高大接続②
会　場　：　512 教室
司　会　：　出光直樹（横浜市立大学）・川嶋太津夫（大阪大学）

13:30～13:50　看護学部生の入学前後における大学へのイメージ不一致と大学受験前入手情報の質との因果について－入学前の大学調査行動と入学後満足度との比較（第一報）－
◯高見精一郎（日本赤十字豊田看護大学）、森田一三（日本赤十字豊田看護大学、非会員）、上村　治（一宮医療療育センター、非会員）

13:50～14:10　大学入学後の主体的な学習態度の規定要因：高校段階の学習行動と生活経験に着目して
◯田中孝平（京都大学大学院）、山田礼子（同志社大学）

14:10～14:30　高校教員から見た大学教育改善への期待
◯中島英博（名古屋大学）

14:30～14:50　高校・大学のリーダーシップ経験が、レジリエンス・リーダーシップ自己効力感に与える影響について
◯武田佳子（桐蔭学園）、溝口　侑（京都大学大学院）、溝上慎一（桐蔭学園）

14:50～15:10　高校教員向け探究学習指導者養成を通した高大接続－4 年間の実践の検証－
◯佐藤浩章（大阪大学）、◯吉本真代（大阪大学）、山下仁司（大阪大学、非会員）

15:10～15:30　総合討論

部会 20　学生支援②
会　場　：　513 教室
司　会　：　青野　透（徳島文理大学）・小田隆治（山形大学）

13:30～13:50　4 年目を迎えたアクセシビリティ支援室の現状と課題
◯田実　潔（北星学園大学）

13:50～14:10　通信制大学における障害学生支援の現状と課題―大学 Web サイトの調査及び質問紙調査の結果から―
◯野口久美子（八洲学園大学）、野口武悟（専修大学）

14:10～14:30　発達障害学生の就労移行支援における就労支援事業所との連携の在り方に関する研究
◯小川　勤（静岡福祉大学）、岡田菜穂子（山口大学）

14:30～14:50　準正課の理系プロジェクトにおいて学生が抱える困難の検討
◯池田めぐみ（東京大学）、伏木田稚子（首都大学東京）、山内祐平（東京大学、非会員）

14:50～15:10　学生はなぜ単位不足に陥るのか―低単位学生の特徴に関する検討―
◯中西勝彦（京都大学大学院）、山田剛史（京都大学）

15:10～15:30　総合討論

部会 21　キャリア教育②
会　場　：　601 教室
司　会　：　圓月勝博（同志社大学）・奈良雅之（目白大学）

13:30～13:50　７年目の共通科目「キャリア形成の為の数学基礎Ⅰ・Ⅱ」と「外部評価試験」実施報告
◯藤井一正（皇學館大学）

13:50～14:10　論理的コミュニケーションを高める大学のキャリア教育科目の実践－学生の講義レポートに対する特任講師のコメントと学生の文章力の変化－
◯今西正和（電気通信大学）

14:10～14:30　芸術大学の地域連携 PBL 授業における成果と課題―現役デザイナーと共同担当した PBL 授業の事例から―
◯濱中倫秀（成安造形大学）

14:30～14:50　社会人のイメージと課題を知らせる初年次教育への準備的実践報告
◯比屋根　均（日本技術士会）

14:50～15:10　キャリア教育科目の授業者が科目横断的な視座を獲得するプロセスの質的分析―M-GTA を用いて
◯宮田弘一（広島大学大学院）

15:10～15:30　総合討論

部会 22　大学運営②
会　場　：　605 教室
司　会　：　筒井洋一（京都工芸繊維大学）・秦　敬治（岡山理科大学）
13:30～13:50　停滞する大学に共通する事情と打開策
◯岩田年浩（京都経済短期大学）
13:50～14:10　グローバル対応に立ち後れた日本（企業・教育機関）への課題提起
◯津吹達也（京都工芸繊維大学）
14:10～14:30　国立大学における IR の組織と人材配置について
◯川内亜希子（神戸学院大学）、山田剛史（京都大学）
14:30～14:50　私立大学における IR
◯劉　文君（東洋大学）
14:50～15:30　総合討論

15：50～16：20　事業報告会　　会場：521教室

16：30～16：50　開会行事

開催挨拶　大学教育学会　会長　山田礼子
開催校挨拶　玉川大学　学長　小原芳明
JACUE セレクション認定式

16：50～18：10　基調講演　　会場：521教室

演　題　：　AI 時代の高大接続改革 - 読解力調査から見る今の高校生・大学生
講　師　：　新井紀子氏　国立情報学研究所　社会共有知研究センター長・教授
社団法人　教育のための科学研究所　代表理事・所長
司　会　：　大塚雄作　大学入試センター、本大会企画委員長

18：30～20：00　情報交換会　　会場：カフェテリアSAKUFU

6月2日（日）　大学教育棟 2014

9：00～　　受付

9：30～12：00　ラウンドテーブル

テーブル１　経験学習型教育実践で学生にどのように働きかけるか
会　場　：　501 教室
企画者　：　河井　亨（立命館大学）、岩井雪乃（早稲田大学）、和栗百恵（福岡女子大学）、大山牧子（大阪大学）
趣　旨　：　本ラウンドテーブルでは、経験学習型教育実践でどのように学生に働きかけるかに関する実践知の展開に向けて、多様な教育実践の文脈・活動・経験を結びつけて省察を言語化する。１）活動の背景と取り上げる場面に関わる文脈を説明し、２）具体的な場面をとりあげ、３）その瞬間にどのように学生に働きかけたか（手立て）、４）その際に意図していたことについての教授者の省察を示す。５）その場面であり得た可能性を含めて批判的に省察することで、手立ての意義について考察する。

テーブル２　実務家教員を考える120分

会　場　：　502 教室

企画者　：　古賀暁彦（産業能率大学）、出光直樹（横浜市立大学）、柴田喜幸（産業医科大学）、筒井洋一（京都工芸繊維大学）

趣　旨　：　昨今「実務家教員」という文字を頻繁に目にするようになった。しかし、文科省では「専攻分野における概ね５年以上の実務の経験を有し、かつ高度の実務の能力を有する者」と定義するだけで、想定される人材像を明確化にしていない。そのため各々が異なる実務家教員像を前提に話し始め、その是非や役割などについて建設的な議論が成立しない事態が起こっている。本ラウンドテーブルでは、普段参加者の周りで働いている実務家教員を手がかりにその多様性を認識し、「実務家教員タキソノミー」を検討・共有化することを具体的なゴールとする。ここで得た知見が、今後の「実務家教員議論」のベースとなれば幸いである。

テーブル３　大学生のメタ認知を測定する

会　場　：　503 教室

企画者　：　山地弘起（大学入試センター）、丹羽量久（長崎大学）、金西計英（徳島大学）、椿本弥生（東京大学）

趣　旨　：　本ラウンドテーブルでは、成人用メタ認知尺度としてよく知られるMetacognitive Awareness Inventory (MAI; Schraw & Dennison, 1994)の邦訳の試みと、それを用いた３つの大学での測定結果を報告し、メタ認知に焦点をおいた教育改善を考える一助としたい。まず、長崎大学で行われたMAIの邦訳プロセスを紹介し、初年次教育での測定事例を報告する。次いで、徳島大学においてアクティブラーニング型授業でMAIによるメタ認知測定を行った結果を報告し、最後に、東京大学においてTAを対象にMAIによるメタ認知測定を行った結果を報告する。

テーブル４　質的研究を考える　－学生，教員，職員の学びと成長を捉える学習研究の手法として－

会　場　：　504 教室

企画者　：　森　朋子（関西大学）、山田嘉徳（大阪産業大学）、上畠洋佑（愛媛大学）

趣　旨　：　大学生の学びは豊かで多様だ。その成果をデータにより可視化するには，量的と質的の２つのアプローチがある。量的アプローチは，一般性を高めることを目的に個別の現状をできるだけ切り離し，共通する傾向を数値で表していく。それに対して質的アプローチは，個別事例を１つのフィールドとして，そこで展開される状況依存的な学びの構造やプロセスを，インタビューや発話，行為によって明らかにする。２つの方向性はどちらも大学教育の質向上に欠かせない視点であることを前提に，本ラウンドテーブルでは，質的アプローチに焦点を当て，事例報告を行いながら質的研究が持つ可能性と課題について議論することを目的とする。

テーブル５　未来の教養教育のグランドデザイン　－問いの探究を基盤とした超域コンテンツの開発－

会　場　：　510 教室

企画者　：　佐藤浩章（大阪大学）、江川善光（NHK エデュケーショナル）、加藤満徳（Ｚ会ソリューションズ）、尾澤重知（早稲田大学）、山内　洋（大正大学）、榊原暢久（芝浦工業大学）、梅村　修（追手門学院大学）

趣　旨　：　初等・中等教育の改革、ICTの普及、産業社会の変化を受けて、大学の教養教育は問い直しを迫られている。実施組織や教育方法の問題だけではなく、新制大学誕生以来大きく変化していないコンテンツそのものの意義が問われている。本RTでは、2030～2040年の社会を見通し、問いの探究を基盤とした６つの超域コンテンツと教材（映像・テキスト）を提起する。これらの問いは、日本の社会課題から導き出されたものであり、どの学問や職業を選択したとしても市民として探求する価値があるものである。また、現有教員で対応可能なものである。RT参加者はこれを汎用化するためのブラッシュアップ作業に参画する。

テーブル６　大学入学準備教育に組織開発（Organization Development）を活用する

会　場　：　511 教室

企画者　：　川崎弘也（ラーニングバリュー）、本田直也（大手前大学）、杉本義行（成城大学）、加藤みどり（東京経済大学）

趣　旨　：　高校教育から大学教育への接続の課題の一つとして、どのように学生の学びのモチベーションを高めるのかと言うテーマは、各大学関係者の関心の高いところかと思う。主体的に学んで欲しい、自律的に動いて欲しい、自校の学びの仕組みを最大限活用して欲しい、などの願いをどのようにすれば実現できるのか。アクティブ・ラーニングの定義にも示されている学生間の対話的学びを実現するには、何が必要なのか。本ラウンドテーブルでは、組織開発(Organization Development)の手法を活用した学びのデザインを行った複数大学から話題提供させて頂き、参加者の皆さんと効果的な高大接続教育のあり方を考えたい。

テーブル７　学修成果アセスメント・ツールの活用支援を通したエキスパート・ジャッジメントの涵養と大学組織の変容：先駆的事例の分析

会　場　：　512 教室

企画者　：　深堀聰子（九州大学）、松下佳代（京都大学）、中島英博（名古屋大学）、佐藤万知（広島大学）、田中一孝（桜美林大学）、斎藤有吾（藍野大学）、畑野　快（大阪府立大学）

趣　旨　：　大学教育の学修成果を明示し、その達成度を可視化することへの社会的要請の高まりに応えて、国内外の大学関係者によって、分野横断的及び学問分野別学修成果の参照基準が作成されてきたが、必ずしも活用されていないのが現状である。そうした中で、参照基準の抽象的な学修成果を「課題」「テスト問題」「ルーブリック」と言ったアセスメント・ツールにおいて具体化することで、学修成果に関する共通理解を形成しようとする動きが、米国・欧州・日本で同時展開している。本ラウンドテーブルでは、それらの取組について紹介し、大学教員の変容を基盤として、大学組織はいかに変容し得るのかについて考察する。

テーブル８　学生の目を輝かせる大学教育の可能性Ⅺ　－しっかりと「学べる」大学、学びを「生かせる」人材育成－

会　場　：　513教室

企画者　：　高橋真義（東日本国際大学）、橋本　勝（富山大学）、中村拓昭（九州産業大学）、十河功一（九州女子大学）、杉原　亨（関東学院大学）、郷原正好（広島大学）、菊地勇次（千葉大学）、柳生修二（総合研究大学院大学）、米田敬子（文教大学）

趣　旨　：　時代の変化に合わせた人材育成は喫緊の課題である。　高等教育は、学修者本位の教育への転換が必要となる。学生の学修意欲を保ち、主体的な学修を可能とする大学を構築するために、教職員の主体的な参画が求められる。 本年度は、教員・職員が、「しっかりと学べる大学」を創るための実践事例を発表し、参加者と議論する。

テーブル９　世界の大学教育改革　―誰が何を問い、どこを目指しているのか―

会　場　：　601 教室

企画者　：　杉本和弘（東北大学）、森　利枝（大学改革支援・学位授与機構）、夏目達也（名古屋大学）、飯吉　弘子（大阪市立大学）

趣　旨　：　過去四半世紀、日本では矢継ぎ早に大学教育改革が進められてきた。それは基本的に政府や産業界の学外ステークホルダーから提案され、時に財政的インセンティブにより強力に誘導される形で進んできたと言ってよい。各大学の主体的な取組が追いつかないスピードで改革の実績を迫り、かえって現場の創発力や自律性を削いでしまう危険性さえ有していたと言わざるを得ない。この状況に鑑み、本ラウンドテーブルでは、いま一度、我が国で生じている危機的状況を相対化すべく、海外の大学教育改革の現状と課題を国際比較的に考察し、政府・産業界・大学のステークホルダーがいかにイニシアチブを採り、最終的に何を実現しようとしているのかを解明する。

テーブル 10　理系的教養の再構築：グローバルに越境する STEM 教育

会　場　：　605 教室

企画者　：　山田礼子（同志社大学）、木村拓也（九州大学）、小笠原正明（北海道大学）、山田亜紀（玉川大学）、塚原修一（関西国際大学）

趣　旨　：　現在のグローバル化と知識基盤社会において、世界の高等教育政策はSTEM領域におけるイノベーションにつながる教育プログラムの充実をうたっている。STEM人材に求められるグローバル・コンピテンス（以下GC)を学際性及び21世紀型教養の専門教育への融合という視点から定義した上で、日米中の3か国のSTEM分野の大学・院卒者を対象に実施した調査の分析を起点にGCを含む理系的教養教育とは何かについて議論する。その際、「日本の工学分野の現状と今後のGC獲得に向けての在り方」、「日米のSTEM学生に文系科目を教授する意味と課題」を題材に議論を進める。

テーブル 11　学修成果可視化の先にあるものとは ～アセスメント文化の醸成～

会　場　：　606 教室

企画者　：　藤木　清（関西国際大学）、濵名　篤（関西国際大学）、林　透（山口大学）、望月雅光（創価大学）、大関智史（宮崎国際大学）

趣　旨　：　昨年末公表の中央教育審議会『2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申)』において、学修者本位の教育への転換が改めて強調された。近年、大学教育の組織レベルでは、3つのポリシー公表を基礎に、学位プログラムにおける学修目標達成度の可視化が急速に進んでいる。その一方で、「何のための学修成果可視化なのか」「学修成果可視化をどのように活用すべきなのか」といった議論が不足している。学修者のための学修成果可視化であるためには、各機関における「アセスメント文化」の醸成が求められる。本ラウンドテーブルでは、学修者本位の観点に立ちながら、学修成果可視化とその先にある本質的な価値や課題について議論したい。

テーブル 12　一般教育の知的遺産を活かす（その 11）

会　場　：　610 教室

企画者　：　志津木敬（広島大学）、深野政之（大阪府立大学）、杉本孝作（四国学院大学）、小山悦司（倉敷芸術科学大学）、塩沢一平（二松学舎大学）、亀倉正彦（名古屋商科大学）、加藤雄大（日本大学大学院）

趣　旨　：　「学生の自己教育(self-directed learning)」は、第９課題研究「学生の自己教育」で用いられました。しかし元来は、一般教育学会設立準備委員会「[参考資料] 一般教育の研究領域および研究課題」に遡ることができます。一般教育学会は、大学教育の全体性を高める学会でした。その意味では、一般教育の学術的特質の手掛かりともいえる術語です。中央教育審議会答申『2040年の高等教育のグランドデザイン』では、一般教育・共通教育が用いられました。一般教育の知的遺産を活かすことは今、切実です。多くの先生方のご参加をお待ちしています。

テーブル 13　日本におけるアカデミック・アドバイジングを追究する　～効果的な組織運営について～

会　場　：　611 教室

企画者　：　清水栄子（追手門学院大学）、秦　敬治（岡山理科大学）、山崎めぐみ（創価大学）、岸岡奈津子（立命館大学）、御厨まり子（明星大学）、島田敬久（テンプル大学）

趣　旨　：　過去2回の本学会ラウンドテーブルでは、日本の大学におけるアカデミック・アドバイジングの担当者およびその能力開発の実態を明らかにしてきた。その中で、アカデミック・アドバイジングは以前から実践されているものの、必ずしも組織的な取り組みとはなり得ていないことが改めて明らかになった。今回は、これまでの議論を整理し、アカデミック・アドバイジングに関わる教員、職員および管理職の立場からアカデミック・アドバイジングの理想像ついて論じていく。また、フロアとの意見交換を通しより効果的な組織作りについて明らかにしたい。

テーブル14　保健医療福祉系大学における教養教育の問題（10）－教養教育の日本的意義をめぐってー

会　場　：　615 教室

企画者　：　小野滋男（北海道医療大学）、志水　幸（北海道医療大学）、寺﨑昌男（東京大学）、町田修三（高崎健康福祉大学）、遠藤良仁（岩手県立大学）、小関久恵（東北公益文科大学）、森元　拓（山梨大学）、宮本雅央（青森県立保健大学）、山下匡将（名古屋学院大学）、早川　明（龍谷大学短期大学部）

趣　旨　：　これまで、われわれは当該課題について本質論的テーマや現実的テーマを設定し、過去9回にわたり議論を深めてきた。昨年は、近年のわが国の現状に鑑み「国際化とDisciplineの越境」をテーマとしたが、この度はそれと対をなす「教養教育の日本的意義」や展開をテーマに議論したい。保健医療福祉系大学が目指すべき人材像は、人びとの生活（生老病死）に寄り添える高度な専門職業人を養成することである。したがって、そこでは認識論や論理性、価値を前提としつつも、それらを超えた幅広い教養が求められる。この度のラウンドテーブルでは、幅広い教養の中でもわが国の独自性に着目し、その具体的な展開方法について明らかにしたい。

テーブル15　運動部学生の学業支援　～大学スポーツ協会（UNIVAS)の支援事業と現場の取り組み～

会　場　：　621 教室

企画者　：　長倉富貴（山梨学院大学）、長尾佳代子（大阪体育大学）、幸野邦男（武庫川女子大学）、小林勝法（文教大学）

趣　旨　：　今年3月1日に設立される（一社）大学スポーツ協会（UNIVAS）の学業支援事業について、小林勝法（文教大学）より情報提供を行い、現場の取り組み事例として長尾佳代子（大阪体育大学）よりリメディアル教育からみた学生支援について紹介する。また大学間で連携し学習支援を組織的に行っている国内外の事例紹介を長倉富貴（山梨学院大学）より行う。本企画は、これまでのRT企画企画「学生アスリートのライフスキルと学業・学習支援」(2013年)、「運動部学生の学修支援」(2018年）の流れを受け継ぎ、参加者同士の情報交換、意見交換の時間をしっかりと確保し各大学現場に活かしていただけることを目指している。

テーブル16　長期学外学修（ギャップイヤー）による人材育成のデザイン

会　場　：　505 教室

企画者　：　澤邉　潤（新潟大学)、河本達毅（文部科学省）

趣　旨　：　本ラウンドテーブルでは，高大接続改革の一翼を担う文部科学省 AP 事業テーマⅣ「ギャップイヤー（長期学外学修)」に採択された大学の実践事例を通じて，日本の高等教育機関の初年次教育，学事暦の柔軟化，教育課程の体系化など個別の問題として切り離すべきでない課題を包括的に議論することを目的とする。とりわけ，高大接続改革の議論は入試改革に関心が集まるが，教育課程の接続・連携も極めて重要な課題でもある。発表者には，様々な立場の高等教育関係者（大学研究者，大学行政，大学職員等）の登壇を予定している。多様な立場から大学教育改革の現状と今後を議論することで，会員間の学術的交流を促進することを目指す。

テーブル17　【課題研究】
ライティングセンターの機能と展望　―学生の思考を鍛えるライティング教育に向けて

会　場　：　602 教室

企画者　：　井下千以子（桜美林大学)、大島弥生（東京海洋大学)、成瀬尚志（長崎大学)、小山　治（京都産業大学)、小笠原正明（北海道大学)、杉谷祐美子（青山学院大学)、関田一彦（創価大学)、芝原宜幸（開智国際大学）

趣　旨　：　本 RT は課題研究「学生の思考を鍛えるライティング教育の課題と展望」の一環としておこなうものである。2018 年度課題究集会では「初年次必修文章表現科目の成果と課題」「レポート課題にどのような論題をかせばよいか」「思考を鍛えるようなレポート学習経験をすると

卒後の職業にどう活きるか」などライティング教育の役割を俯瞰的に捉えた。今回は正課と正課外をつなぐライティング教育の中核となるライティングセンター(WRC)の機能に焦点を当てる。大学によって WRC の歴史や位置づけ、指導内容や体制は異なる。各大学の事例報告から WRC の多様性を確認した上で、WRC の持続的効果的な指導体制や支援のあり方について展望することを目的とする。

テーブル18　【課題研究】
アクティブラーニングを支援する学生アドバイザーの制度・研修・ 効果に関する実践枠組みの検討

会　場　：　612 教室

企画者　：　杉森公一（金沢大学）、堀井祐介（金沢大学）、河内真美（金沢大学）、山本啓一（北陸大学）、田尻慎太郎（横浜商科大学）、宮本知加子（福岡工業大学）、三浦真琴（関西大学）、安部（小貫）有紀子（大阪大学）、沖　裕貴（立命館大学）

趣　旨　：　アクティブラーニング型授業におけるTA（大学院生）・SA（学部生以上）の役割を「学生アドバイザー」と置き，学部生を含めたピアの学修支援を実現する，制度・研修・活動・効果を実証的に研究する。学生アドバイザーは，個別の大学が個別に取組んでいるが，制度として組織的に効果的に位置づけれられるならば，その養成を個々の教員・取組みにとどめることなく，授業の受講学生の教育・学修の質の向上をともに図ることを可能とすることが期待される。本ラウンドテーブルでは，国内実践事例とそのアンケート調査・ヒアリング調査等をヒントに，学生アドバイザーのための実践枠組みを検討し， 線から面へつなげる議論の機会としたい。

12：00～13：00　昼食

13：00～16：00　シンポジウム　　会場：521教室

テーマ　：　どう変わる高校教育・どう変える大学教育―高大接続改革における大学教育のあり方を問う

シンポジスト

：　①　高校新学習指導要領の方向性　　荒瀬　克己　氏（大谷大学）
②　国際バカロレアの実際と高大接続　　星野あゆみ　氏（玉川大学）
③　高大接続改革における大学教育のあり方　　松下　佳代　氏（京都大学）
○　指定討論　　山地　弘起　氏（大学入試センター）
司　会　　大塚　雄作　氏（大学入試センター）

16：00～16：10　閉会挨拶

16：30～18：00　ポストワークショップ（会員限定、事前受付者のみ）

ポストワークショップ A「教学 IR と教育改善の接続－指標としての可視化－」
講師：松田岳士会員（首都大学東京）・杉原　亨会員（関東学院大学）
会場：大学教育棟 2014 3F ラーニング・コモンズ内

ポストワークショップ B「授業改善につながるリフレクションの方法」
講師：大山牧子会員（大阪大学）
会場：大学教育棟 2014 3F ラーニング・コモンズ内

３．参加申し込みについて　（申込み期日：～5 月 11 日）

大会への参加申し込みは下記 URL からご登録ください。学会ホームページからアクセスできます。

▼大会参加申し込み URL →　https://conv.toptour.co.jp/shop/evt/daigakukyouikugakkai/

第 41 回大会におけるすべての申込み（大会参加、要旨集のみ購入、弁当、宿泊、若手交流会参加、ポストワークショップ参加）は、大会ホームページから行っていただけます。また、支払手続きはすべて大会ホームページ上で選択いただけます。オンライン決済（クレジットカード）、銀行振込みに対応しています。

【参加費用一覧】　※申込期限は 5/11（土）、支払期限は 5/18（土）です。銀行振込での支払いを 5/11 までに選択された後、5/18 までにお支払いにならなかった場合は大会当日料金となりますのでご注意ください。

費用項目		申込日	
		5 月 18 日（土）までの事前支払	大会当日
参加費	会員・一般	5,000 円	6,000 円
	学生	2,000 円	3,000 円
情報交換会費	会員・一般	5,000 円	6,000 円
	学生	3,000 円	4,000 円
6/1（土）、6/2（日）のお弁当代		各 1,000 円（税込）	
『要旨集』のみ希望		2,000 円（送料込）	
6/1（土）　情報交換会終了後の若手交流会参加費（会員・一般・学生）		5 月 11 日（土）までにお申込みください（先着 40 名）。都合が悪くなった場合は 5 月 24 日（金）までに jacue.con.2019@tamagawa.ac.jp 宛にキャンセルの連絡をしてください。それ以降はキャンセル料が発生する場合があります。	
6/2（日）ポストワークショップ参加費（会員限定）（事前受付者のみ）		ポストワークショップ A・B 各 50 名先着で、大会ホームページ上で参加申し込みを受け付けます（締切：5 月 11 日）。参加費（5,000 円、テキスト代込み）納入手続きも、大会ホームページ上で行ってください。その後に参加不可になった場合も返金はできません。代理の方に出席いただくことは可能です。どなたも参加できない場合はテキストを後日郵送します。テキストが不要でも割引はありません。	

●要旨集費（2,000 円）は、大会に参加されず『要旨集』のみご希望の方が対象です。

●本大会では、郵便振込による各種支払を採用していませんので、ご注意ください。

４．宿泊予約について

本大会にご参加の皆様方の宿泊は、「東武トップツアーズ　玉川学園前支店」にて案内させていただきます。予約は先着順となりますので、宿泊手配ご希望の皆様は、上記の大会ホームページからお申し込みください。

※ 本大会では、託児室を開設いたしません。ご了解のほどよろしくお願いいたします。

５．玉川大学へのアクセス

小田急線「玉川学園前」駅 北口より、新宿方面へ進み、正門へ到着します。（徒歩 3 分）

新宿より〈快速急行〉に乗車し、「新百合ヶ丘」にて〈各停〉〈準急〉に乗り換え（約 40 分）

小田原より〈快速急行〉に乗車し、「町田」にて〈各停〉〈準急〉に乗り換え（約 60 分）

横浜より JR 横浜線「町田」にて小田急線〈各停〉〈準急〉に乗り換え（約 45 分）

八王子より JR 横浜線「町田」にて小田急線〈各停〉〈準急〉に乗り換え（約 40 分）

羽田空港から京急空港線に乗車し、「京急蒲田」で京急本線に乗り換え「横浜」へ。JR 横浜線に乗り換え、「町田」で小田急線〈各停〉〈準急〉に乗り換え（約 90 分）

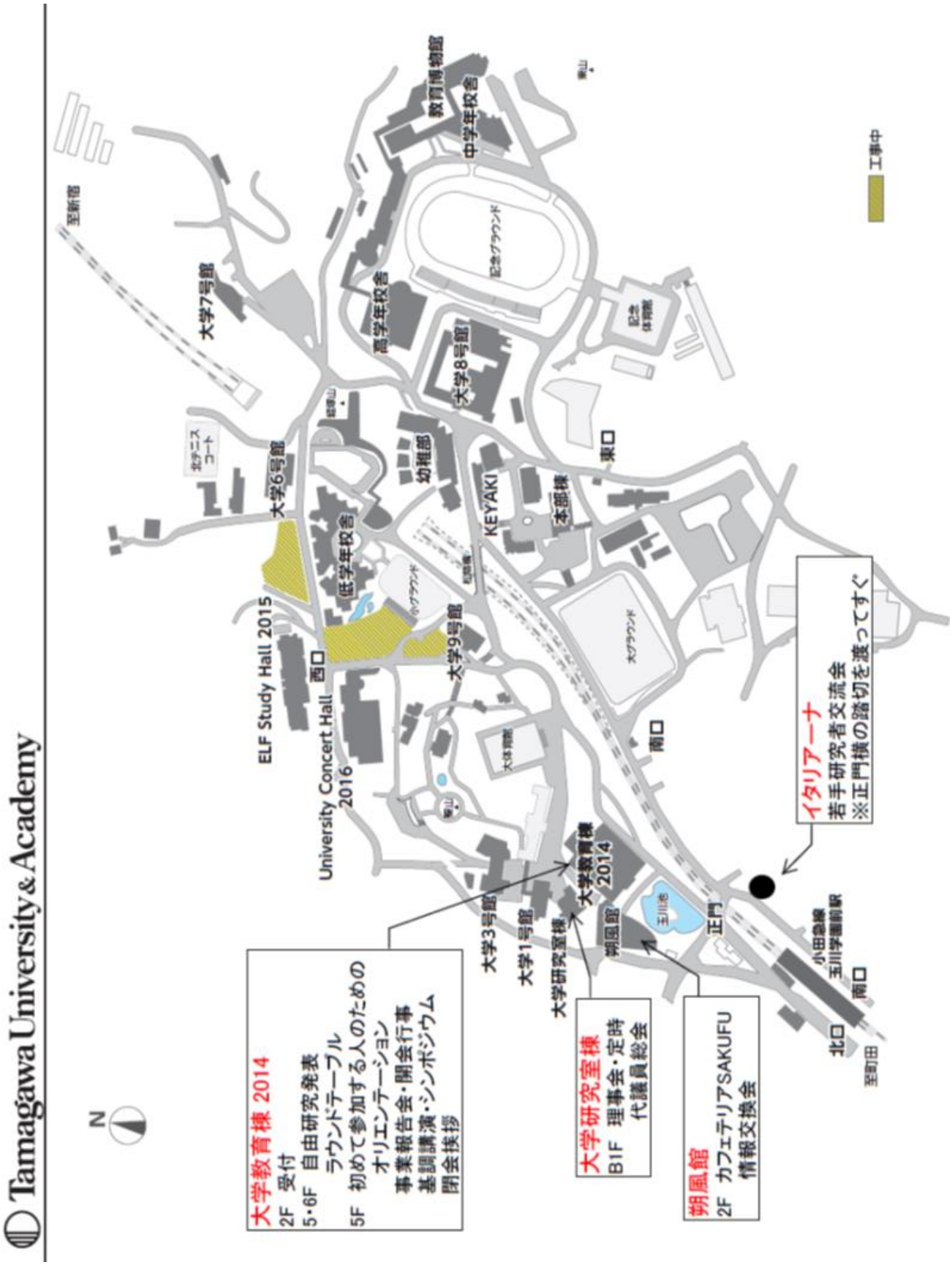
東急田園都市線「青葉台」駅よりバス 17 分

「青葉台」駅にて東急バス青 118 系統「奈良北団地折返場」行きに乗り換え

「奈良北団地」停留所下車、徒歩 8 分

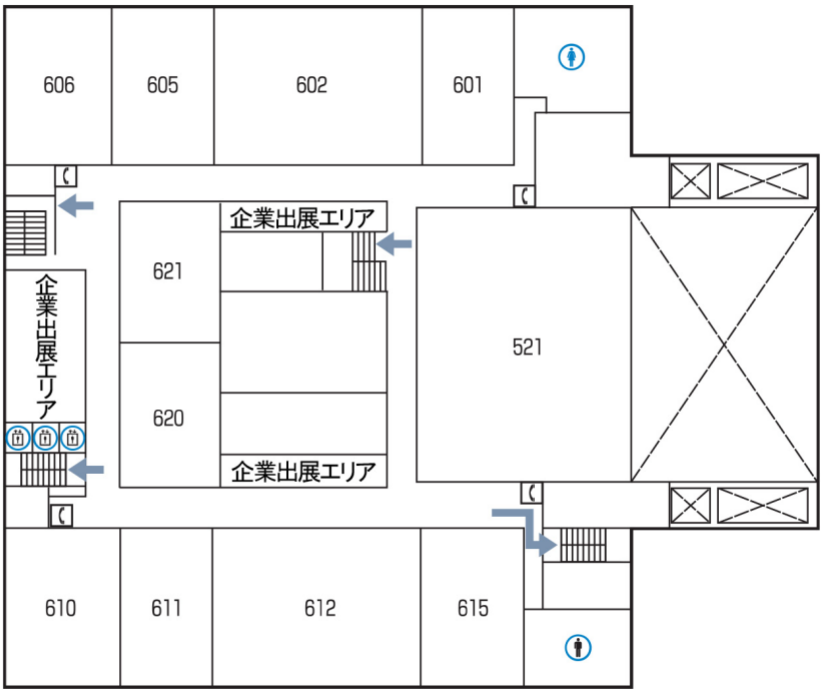
※ お車でのご来園はご遠慮ください。

- 玉川大学　キャンパスマップ

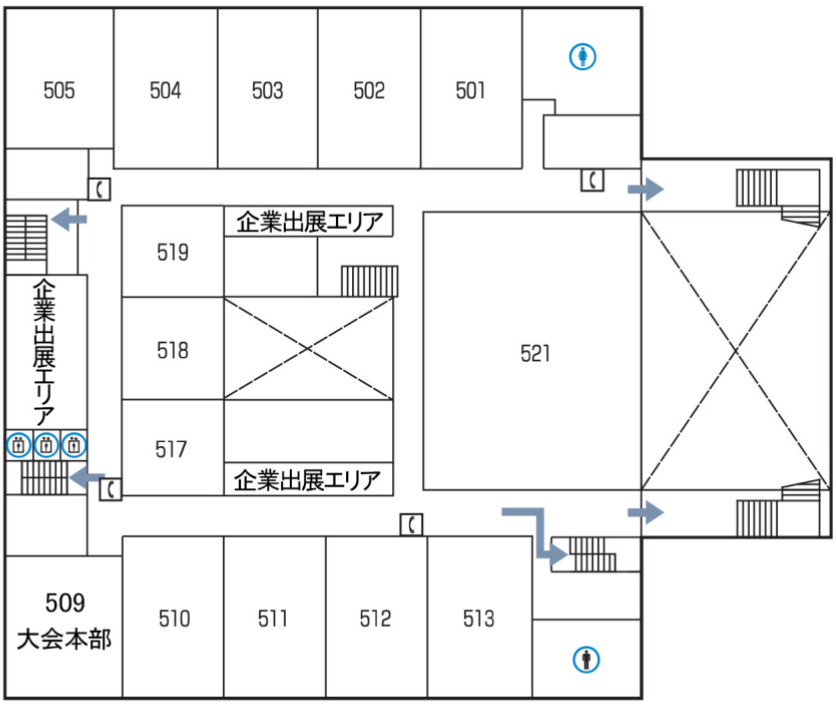


- 大学教育棟 2014 5・6F　フロアマップ

■ 6 階



■ 5 階



※企業出展エリアは変更する場合もあります。

・大学教育棟 2014 5F 518 教室および 6F 620 教室は下記の時間、休憩室としてご利用いただけます。昼食や休憩にご利用ください。

6/1 12：00～14：00
6/2 11：30～13：30

・大きなお荷物は 5F 517 教室にてお預かりいたします。ご利用ください。

・事前にお申し込みいただきましたお弁当は下記の時間に、2F 受付にてお受け取りいただけます。その際、申し込みの際に提示された引換券をご持参ください。なお、当日のお申し込みはできません。

6/1 12：00～14：00
6/2 11：30～13：30

ご不明な点がありましたら、下記までご連絡ください。

第41回大会（玉川大学）に関するお問い合わせ

〒194-8610 東京都町田市玉川学園6-1-1 教学部内
大学教育学会 第41回大会実行委員会
E-mail: jacue.con.2019@tamagawa.ac.jp

※メールの件名には、「大学教育学会第41回大会に関する問い合わせ」とご記入ください。

●2019 年度大学教育学会課題研究集会について

2019 年度課題研究集会　企画委員会・実行委員会

2019 年度大学教育学会課題研究集会は、11 月 30 日（土）から 12 月 1 日（日）までの間、エリザベト音楽大学（広島市中区）において開催予定です。企画委員会〔濱名篤(委員長)、馬本勉、川野祐二、中井俊樹、深堀聡子、吉田香奈〕では、全体テーマを「大学、そして学士課程教育で、どのような人材を育成するか～第 4 次産業革命と society5.0 に向けて～」として、以下のプログラム（案）で準備を進めています。

前年度同様「ポスター・セッション」を実施いたします。発表予定の方は、下段の要領にしたがい、早めにご準備くださるようお願いいたします。

【プログラム（案）】 ＊プログラムは変更される場合があります。

11 月 30 日（土）

9:30　受付開始・ポスター準備
10:00 ～ 12:15　ポスター・セッション
12:15 ～ 13:00　昼食休憩
13:00 ～ 13:30　開会行事
13:40 ～ 15:00　基調講演
講 師 ： 佐藤郁哉氏 （同志社大学教授）
15:10 ～ 17:00　開催校シンポジウム
テーマ ：「大学、そして学士課程教育で、どのような人材を育成するか～第 4 次産業革命と society5.0 に向けて～」
17:30 ～ 19:00　情報交換会

12 月 1 日（日）

9:00　受付開始
9:30 ～ 12:00　【課題研究シンポジウムⅠ】 ／ 【課題研究シンポジウムⅡ】
12:00 ～ 13:00　昼食休憩
13:00 ～ 15:30　【課題研究シンポジウムⅢ】 ／ 【40 周年記念シンポジウム】
15:40 ～ 16:00　閉会行事

【ポスター・セッションについて】

11 月 30 日（土）10 時から 12 時 15 分までの間、「ポスター・セッション」を実施いたします。この「ポスター・セッション」の発表資格や内容等は、大会の「自由研究」と同等とし、1 発表につき、高さ 180cm×幅 90cm のパネルを用意する予定です（テーブルや電源、インターネット等はありません）。各自でポスターを印刷し、当日ご持参ください。また、予稿集に掲載する原稿を提出していただくことになります。みなさまのご参加をお待ちしております。

・発表申込期間 ： 2019 年 7 月 1 日（月）～7 月 26 日（金）
※学会ウェブサイト内「会員ページ」からのお申込み、申し込み開始はメルマガで案内（予定）
・発表可否通知 ： 2019 年 9 月上旬
※発表可否通知メール送信
・発表要旨原稿提出締切 ： 2019 年 9 月 27 日（金）

☆週末の開催のために混雑が予想されます。宿泊については早めにご予約くださるようお願いいたします。

理事会便り

（理事会の詳細は、ウェブサイトの会員ページに掲載されています。）

● 新規課題研究の選定について

新規課題研究として1課題③が選定され、2019年度は3課題の課題研究が進められることになりました。

① 「学生の思考を鍛えるライティング教育の課題と展望 （研究代表者:井下千以子）」、研究期間:2018年4月～2021年3月

② 「アクティブラーニングを支援する学生アドバイザーの制度・研修・効果に関する実証的研究（研究代表者：杉森公一）」、研究期間：2018年4月～2021年3月

③ 「学修成果アセスメント・ツール活用支援を通したエキスパート・ジャッジメントの涵養と大学組織の変容（研究代表者:深堀聰子）」、研究期間:2019年4月～2022年3月

● 第14回大学教育学会奨励賞について

第14回（2019年度）大学教育学会奨励賞は、該当者なしの結果となりました。

●「JACUEセレクション2019」の認定候補について

「JACUE セレクション 2019」として以下の５冊が認定候補となりました。

① 後藤文彦『主体性育成の観点からアクティブラーニングを考え直す』2018 年、ナカニシヤ出版

② 山本啓一他編著『今選ぶなら、地方小規模私立大学！～偏差値による進路選択からの脱却～』2018 年、株式会社レゾンクリエイト

③ 栗田佳代子、日本教育研究イノベーションセンター編著『インタラクティブ・ティーチング―アクティブラーニングを促す授業づくり―』2017 年、河合出版

④ 近田政博編著『研究指導（シリーズ大学の教授法５）』2018 年、玉川大学出版部

⑤ ジェラルド・ガニー、ドナ・ロビアノ、アンドリュー・ジンバリスト著、宮田由紀夫訳『アメリカの大学スポーツ―腐敗の構図と改革への道』2018 年、玉川大学出版部

所要の手続きを経て正式に認定されれば、6 月 1 日（土）の 2018 年度事業報告会後の開会行事内にて認定式を執りおこなう予定です。

＝事務局から＝

● 会費納入のお願い

2019年度迄の会費未納分を含めて会費請求書・郵便払込取扱票を同封しております。過年度分会費未納がある会員は、速やかにご入金ください。

納入は、下記オンライン決済をご利用いただけます。また、従来の郵便振替口座をご利用いただくことも可能です。

領収書につきましては、下記オンライン発行をご利用ください。

年会費等郵便振替口座　00210-9-102857 「一般社団法人大学教育学会」

また、銀行からのご入金を希望される場合は、
入金前に必ず、以下の大学教育学会　学会業務取扱センターまでその旨ご連絡下さい。

＜「入退会・会員登録情報変更・会費納入状況」の問い合わせ先＞

大学教育学会　学会業務取扱センター
〒170－0002　東京都豊島区巣鴨1丁目24-1-4F
TEL:03－5981－9824　FAX:03－5981－9852
E-mail:g022lges-mng@ml.gakkai.ne.jp

過年度会費の滞納がある場合は、学会誌の発送を見送る措置をとらせていただいております。
納入状況は、学会ウェブサイトの会員ページにあります「会員情報の照会・更新」からご自身で確認可能です。
また、学会誌への投稿、大会・課題研究集会での発表申込みは、申込時の当該年度分までの会費が納入済みであることが条件となります。

※第41回大会（玉川大学）の6月1日（土）、2日（日）は、会場に学会事務局の受付を設置し、未納分の会費納入、会誌バックナンバー・学会出版物の頒布予約等を行いますのでご利用ください。

● 年会費のクレジットカード決済のご案内

2018年度より、年会費のクレジットカードによるオンライン決済ができるようになっております。
同時に領収書のオンライン発行も可能となりましたので、ご利用ください。
大学教育学会ウェブサイト・トップページにある「年会費オンライン決済」のボタンをクリックし、「オンライン決済ログイン」もしくは「領収書発行ログイン」のどちらかを選択します。

＜オンライン決済の場合＞

① 会員情報管理認証画面に移行しますので、会員IDとパスワードを入力し、ログインします。
② オンライン会議決済のページに移り、会費請求額が示されますので、ご確認の上、決済金額をご入力ください。
＊過年度分の会費が未納になっている方は、「年会費請求額」および「決済金額」を確認してください。
＊デフォルトで未納分を合算した請求額を決済金額としていますので、単年度のみの決済を希望される場合は、決済金額を変更してください。この場合、古い年度分から決済されます。
③ オンライン決済画面では、決済金額を確認し、クレジットカード情報を入力してください。
＊クレジットカード情報等の決済内容は、決済代行会社に送信されるだけで、大学教育学会のサーバーに蓄積されることはありません。また、決済代行会社への通信は、SSL暗号化通信により、通信の秘密は保持されます。
④ 未納の会費がない場合は、「未納の会費請求データが見つかりませんでした」と表示されます。

＜領収書のオンライン発行の手順＞

① 会員情報管理認証画面に移行しますので、会員 ID とパスワードを入力し、ログインします。
② 会員情報管理メニューの「年度別に会費を照会する」のボタンをクリックします。
③ 年度ごとに納付状況が示されます。領収書の必要な年度の「領収書の発行」ボタンをクリックします。
④ 領収書発行の画面の指示に従ってください。

● メールマガジンの受信設定のお願い

現在、会員の皆様に年数回、大学教育学会メール通信（メールマガジン）を配信しております。
しかし、受信拒否や宛先不明を理由に返送されてくるメールが多数あります。ご登録のアドレスにおいて学会アドレスjacue.office@gmail.comより送信されましたメールを受信できるよう設定をお願いいたします。

● 住所変更等会員情報更新のお願い

ご住所、ご所属や役職等に変更がある方は、速やかに、学会ウェブサイトの「会員ページ」にあります「会員情報の照会・更新」からご自身で変更をお願いいたします。ID（会員番号）・PWを紛失された方は、大学教育学会　学会業務取扱センターまでお問い合わせください。

定期刊行物は、宅配業者のメール便を利用しているため、転居にともなう転送はされず数週間後、事務局へ返送されてまいります。何卒ご協力をお願いいたします。

● オンライン検索サービスについて

従来の会員名簿に代わり、会員検索が可能なサービスです。個人会員、団体会員が利用可能です。検索対象は個人会員のみです。

情報検索項目（基本情報）は、【氏名】、【カナ】、【所属先】、【専門領域】の4 項目で検索（部分検索）可能です。その他の項目の開示・非開示については、会員本人の選択項目になります。

こちらのサービスを利用される際にも、ID(会員番号)・PWの入力が必要になります。

● 学会関連資料のご寄贈のお願い

事務局ではアーカイブズの収集、保存にあたっております。

特に探求している資料は、以下の通りです。学会事務局まで「着払い」でお送りください。

大会発表要旨集録等（1979,1981,1989,1990,1993,1998,2000,2001,2002,2003,2004 年）
課題研究集会要旨集（1981,1982,1985,1986,1987,1988,1989,1992,1993,1998,2001,2003, 2004,2005, 2008 年）
その他、一般教育学会時代の資料についてもご寄贈をお待ちしています。

アーカイブズのご利用については、事務局までご連絡ください。

● 2019年度課題研究集会について

2019年度課題研究集会は、2019年11月30日（土）・12月1日（日）に広島エリザベト音楽大学（〒730-00 広島県広島市中区幟町4-15）にて開催されます。 詳細につきましては今後メールマガジンやニュースレター等でご案内していきます。

● 2019年度（第15回）大学教育学会奨励賞の募集について

大学教育学会奨励賞は、大学教育および大学教育研究の発展を期して設けられました。
受賞対象者は本学会個人会員です。2019年度（第15回）は、第38第1号から第41巻第2号までの過去4年間の学会誌に掲載された論文が対象となります。応募は自薦・他薦を問いません。

① **提出書類**　＜自薦＞論文、応募者の略歴及び業績一覧、応募理由（研究の意義・成果など1,000字以内）／＜他薦＞論文、推薦理由（研究の意義・成果など1,000字以内）
② **募集締切**　2020年1月10日（金）必着
③ **送付先**　大学教育学会事務局
〒252-0231 神奈川県相模原市中央区相模原2-8-20-204

なお奨励賞についての詳細は、「一般社団法人大学教育学会表彰規程」第2章をご確認ください。
（本学会ウェブサイト内掲載）

●「JACUEセレクション2020」の募集について

大学教育学会は、各大学の大学教育改革、効果的な大学教育実践を支援するために、優れた書籍を選定し、「JACUE セレクション」として広く紹介することにしています。

「JACUE セレクション 2020」の募集要項は、12 月上旬に公表する予定です。

これまでの JACUE セレクションについてはウェブサイトをご覧ください。

一般社団法人
大学教育学会

【学会事務局】
〒252-0231　神奈川県相模原市中央区相模原2-8-20-204
Tel/ Fax: 042-707-8112
E-mail : jacue.office@gmail.com
URL : http://www.daigakukyoiku-gakkai.org/

【入退会・会員登録情報変更・会費納入状況についてのお問い合わせ先】
大学教育学会　学会業務取扱センター
〒170－0002　東京都豊島区巣鴨1丁目24-1-4F
TEL : 03－5981－9824　　FAX : 03－5981－9852
E-mail : g022lges-mng@ml.gakkai.ne.jp